

平成30年度東京都立荒川工業高等学校 学校経営報告（定時制課程）

東京都立荒川工業高等学校長  
山本 誠

本校は、都立高等学校唯一の電気系の専門学科のみを設置する専門高校である。学習の基礎・基本を充実させ、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育成している。また、実践的な技能・技術の習得や免許・資格の取得指導に力を入れ、卒業後、自立して逞しく生きていく人間を育成するために、次のことについて取り組んできた。

- (1) 電気・電子関係の技能・技術者として、産業社会を支える人材の育成
  - (2) 個に応じた指導を推進し、基礎的な学力を確実に身に付けさせる
  - (3) 免許・資格の取得や検定の合格を目指して取り組み、より高い目標に向けて努力する生徒の育成
  - (4) 生徒に望ましい勤労観・職業観を身に付けさせるとともに、生徒の進路実現を支援し、生涯学び続け、自らの人生を切り拓いていける人材の育成
  - (5) 保護者・地域から信頼され、保護者・地域と一体となった教育活動の推進
- 以下、その結果を報告する。

1 今年度の取組と自己評価

(1) 学習指導

ア 基礎学力の定着、産業社会を支える人材育成のため、アクティブ・ラーニングを活用するなど、工夫して分かる授業を以下のように取り組んだ。

1 学年の「数学Ⅰ」、「化学基礎」、「工業技術基礎」、「電気基礎」、2 学年の「数学Ⅰ」、「物理基礎」で少人数指導を実施し、きめ細かな指導を行い基礎学力の定着を図った。また、産業社会を支える電気・電子関係の技術者育成のため、2 学年の「電気・電子実習」、3 学年の「電気・電子実習」、4 学年の「課題研究」において少人数指導を実施した。

イ 始業前、放課後、長期休業日中等に免許・資格取得のために講習会等を実施し、個に応じた指導を組織的に推進した。結果は以下の通りである。

・第1種電気工事士	1名合格
・第2種電気工事士	4名合格
・2級電気工事施工管理技術検定	2名合格
・第二級陸上特殊無線技士	3名合格
・第三級海上特殊無線技士	4名合格
・危険物取扱者丙種	1名合格
・計算技術検定	2級 1名合格
	3級 1名合格
	4級 10名合格

ウ 授業を始める際に、チャイム開始、携帯・スマートホン指導等全教員できめ細かな指導を行い、授業規律を確保した。

エ ICT機器を活用した授業を、国語、社会、数学、英語、保健体育、工業科等で実施し、生徒の学習意欲を高めた。また、国語、数学ではアクティブ・ラーニングの手法を

取り入れ、生徒同士のグループワーク、教師との対話形式の授業を通し、考えの深化につながる授業を実践した。

オ 「人間と社会」で「空飛ぶ車いす」事業に参加し、今年は8台の車いすを修理し海外に送り、国際的なボランティア活動を行った。

カ 12月課題別学習、3月読書活動等を実施し図書館利用を促し、未読率低下に向け取り組んだ。

キ 教育課程の一部を変更し、第三級陸上特殊無線技士試験免除の認定校取得に向け取り組んだ。

## (2) 進路指導

ア 全日制課程と連携しキャリア教育を組織的・計画的に推進し、合同での会社選考や進路指導、進路ガイダンス、進路の手引きの作成等を行った。

イ 着こなし講座、ハローワーク・ジョブサポーターと連携した職業講話や模擬面接等に取り組み、進路指導の充実を図った。

ウ 4学年13名中、学校斡旋の就職希望者4名、9月の段階で全員内定。また、進学希望者3名も12月までに全員合格。当初から未定の2名を除き全員が進路先を決定した。

エ 生徒の望ましい職業観・勤労観の育成指導や職業選択の意識向上を目指し、教員による企業訪問を実施した。企業現場から、育ててほしい生徒の姿や学校で学ばせてほしい学習内容等、有益な情報交換ができ、進路指導法の改善につなげた。

オ 進路指導部が独自に開拓した2社で夏季休業日中にインターシップを実施し、3学年2名が参加した。

## (3) 生活指導

ア 時間を守らなければならないという意識は年々高まり、徐々にではあるが遅刻回数は減少している。引き続き粘り強い指導を教職員全員で行う。

イ 遅刻の理由は寝坊に次いで仕事やアルバイト関係が多い。学業最優先という考えでなければ長続きしないし進級等も危ぶまれる。始業前学習等を活用し、余裕をもって登校させ、基本的な生活習慣の定着を図る。

ウ 授業規律の確保を目指し、机上に飲物や食物、その他授業に関係のない物を置かないように指導したが、まだ徹底されず。これからも教職員全員で粘り強い指導をする。

エ 交通ルールを守り、迷惑行為などをしない生徒は年々上昇傾向にある。今後も安全教育、規律指導等を徹底する。

オ 声を出して挨拶する生徒は増加しているが、ほとんど挨拶しない生徒も若干ではあるがいる。また、正しい言葉遣いや人の話をきちんと聞くことについても同様である。登校時の校門立番や部活動指導の中で粘り強く声掛けしていくことが必要となる。

カ いじめ・体罰アンケートを各3回実施したが、訴えは1件もなかった。今後も防止指導を徹底していく。

キ 7月には薬物乱用防止教室、12月にはインターネット詐欺について、南千住警察署と連携し実施した。

ク 9月に南千住警察署と連携した交通安全教室を実施した。自転車事故が増加していることから、教員が寸劇を交え、工夫して行った。

ケ 9月のスポーツ教室はボウリングを行った。2名の欠席で参加率は良かった。

コ 文化祭は全・定合同による二日間開催で実施した。

サ 学校行事の参加率は良好で、特に生徒会が中心となった文化祭やスポーツ教室、校外学習等は生徒の興味や関心が高く90%の参加率であった。

#### (4) 特別活動・部活動

ア 部活動加入率は 75.2%（昨年度 71.2%）で高い加入率の中、どの部活動も活発に活動している。特に柔道部は、入部当初ほとんどが初心者でありながら日々の稽古により技術力が向上し、本年の総合体育大会では団体で第一位、高体連主催定・通秋季柔道大会においても、団体・個人戦ともに第一位となる。

イ 部活動の多様性という観点から、一昨年度よりレクリエーション部と電子工作部とアート部を新設した。電子工作部は夏季休業日中に 2 回、小学生向けの親子工作教室、七宝焼き教室を開催した。2 日間で 40 組を募集したところ、100 組近い応募があり、教室の収容人数の関係で抽選になった。また、8 月、12 月と近隣の高齢者通所サービスセンター、特別養護老人ホームに柔道部・生徒会役員でボランティア活動を行った。

アート部写真班は、4 回学校外で撮影会を実施した。バスケットボール部、バドミントン部及びテニス部は高体連定・通部春季・秋季大会の大会に出場した。ミュージック部は部員が少ないながらも、荒工祭のオープニングを飾る演奏を行った

#### (5) 健康づくり

ア 定期健康診断を一斉検診日に集中して実施し、授業への影響を最小限に抑えた。健診受診率（内科検診を受けた者）は 100%、検尿提出率 100%であった。

イ 食物アレルギーについて、今年度も新規の対応は無かった。また、新規発症と思われるケースへの対応もなかった。

ウ 今年度保健室来室件数（処置等の対応を行ったもの）は外科的処置を求めている来室が 20(41)件、休養等内科的処置を求めている来室が 21(65)件、その他での来室が 3(3)件（マスクが欲しい等）、相談目的、話し相手を求めて、またはエスケープ目的と思われる来室が 7(22)件だった。0内は昨年の数字であるが、全体的に昨年の 1/3 になっている。学校が落ち着いてきたと考えられる。

エ 定時制専属のスクールカウンセラーが配置されて 3 年目となり、SC による授業観察等が定着した。面談で得られた情報と共に、生徒観察からの情報も含めて担任・養護教諭等の関係教職員と密に情報共有を行うことができた。校内研修として実施した生徒情報共有会では、SC も含めて情報交換を行うことができた。

オ 昨年、不登校の生徒について自立支援チームの要請派遣を申請し、支援をスタートさせた。その生徒は退学したが現在も自立支援チームに支援されている。

#### (6) 募集・広報活動

ア 「荒工通信」を年 6 回発行し、生徒・保護者や中学生にも配布した。また、ホームページにその内容を公開し地域住民への PR も行った。ホームページの更新回数は 140 回と昨年の更新回数 90 回約 1.5 倍である。

イ 晴海合同説明会では定時制全体で 14 組の相談があった。学校説明会・体験入学では生徒 5 名、保護者 4 名の参加、日々の学校案内では 5 名の見学者があり、昨年に比べ大幅に増加した。しかし、実際の応募状況は第一次募集 7 名、第二次募集 3 名となった。中学校訪問をしても、第一に全日制普通科に入学させたい、という教員の気持ちが強かった。

#### (7) 学校経営・組織体制

ア 体罰防止、服務事故防止、オリンピック・パラリンピック教育、学年連絡会等をテーマとした校内研修を 12 回実施した。

イ 今年度から、ライフ・ワーク・バランスの視点から業務の平準化を目指し、係・委員会組織を充実させた。分掌、学年から横断化してメンバーを選出した。課題は散見されるが、前年より業務の平準化が推進された。

ウ 学年は毎週学年会を開きクラスの生徒情報を共有させている。また、課題のある生徒

に対しては、学年団・養護教諭・SCで情報を共有し、解決策を協議した。分掌も毎週1回分掌会議を開き、各業務の進行管理をした。

エ 7月11日に地震と津波を想定した二段階の避難訓練を実施した。その際、水消火器を使用した初期消火訓練を行った。

オ 11月7日の避難訓練では、荒川消防署南千住出張所と連携し、東京に津波警報が発令された際の身の安全を守る方法や、講話による安全・迅速な避難方法と、自助・共助・公助に関しての適切な対応を学ぶ。緊急時の連絡方法などDVDの視聴を交えながら防災講話を実施した。

カ 今年も、電子工作部が主体で「親子工作教室」を開催した。2日間40名を募集したところ、100組近い応募があり収容人数の関係上止む無く抽選をした。来年度も継続実施したい。

キ 柔道部・生徒会主体で近隣の高齢者通所サービスセンター、特別養護老人ホームにおいて、清掃等のボランティア活動を実施した。次年度も組織的・計画的に継続実施したい。

## 2 次年度以降の課題と対応策

- (1) 本年度から入学者選抜での応募者数が全都的にかなり減少した。本校定時制は9名が入学を予定している。本校は、落ち着いた雰囲気での学習ができ、資格取得に力を入れ実績もある。学校斡旋就職内定率は毎年100%ということも含め中学校、保護者に説明・理解してもらおう手立てを講じることが次年度の課題である。
- (2) 現3学年は、入学当初から始業前学習を取り入れ担任主導で指導し基礎学力の定着等を図ってきた。3学年ではボールペン習字を練習させ、履歴書作成に備えている。始業前学習を全学年で実施するため、教科担当等の協力を得て、組織的に運営することが課題である。
- (3) 中途退学防止のため、5年前からグループエンカウンター事業が始まった。昨年度は中途退学者の割合は7%(4名)と一昨年に比べ大きく減少したが、本年度は2%(1名)とさらに減少した。来年度は中途退学者0名を目指す。
- (4) 電気系の工業高校でありながら、資格取得等を目指さない生徒がいるので、検定合格・資格取得に興味・関心を向けさせることが課題である。そのためには、授業、キャリア講話等で、資格等を所持することが就職活動、人生を生きる上でかなり重要視される、ということを生徒に理解させることが課題である。